情報公開文書

臨床研究内容　ホームページ公開用

1. 研究課題名称

急性期脳卒中患者における麻痺側大腿四頭筋の筋厚減少と3か月後の機能的転帰の関連

2. 研究の背景・目的

治療の進歩により脳卒中患者さまの死亡率は低下していますが，生存者の多くは長期的な身体機能障害に苦しんでいます．脳卒中後の機能回復において筋肉量は重要な因子の1つですが，脳卒中の大多数は高齢者に発症するため，発症時点で既にサルコペニア（加齢による筋肉量の減少）を呈している患者さまも多いのが現状です．多くの先行研究で，脳卒中発症時のサルコペニアは不良な機能的転帰と関連することが報告されています．

一方で，脳卒中は若年者にも一定の頻度で発症します．また，脳卒中発症後には「脳卒中関連サルコペニア」と呼ばれる急速な筋肉量の減少が生じるとされており，高齢者だけでなく，若年者にも起こる可能性が示唆されています．また，脳卒中発症後2週間で両側下肢の筋肉量に10～20%程度の減少が報告されています．すなわち，脳卒中発症時にサルコペニアを呈していなくても，脳卒中後に筋肉量の減少や筋組成（筋肉の質）の変化が生じ，機能的転帰に影響を及ぼす可能性があります．

しかし，急性期脳卒中患者さまを対象とした先行研究の多くは，筋肉量を入院時などの単一時点で評価しており，発症後に進行する筋肉量の縦断的変化と機能的転帰の関連を検討した報告は限られています．

本研究の目的は，急性期脳卒中患者さまにおいて，超音波画像診断装置で測定した麻痺側大腿四頭筋の筋厚(筋肉の厚み)の2時点(入院時と2週間後)の変化率と3か月後の機能的転帰との関連を検討することです．

3. 対象者および期間

2017年～2020年の間に当院で実施された，急性期脳卒中患者さまに対する神経筋電気刺激の筋肉量減少予防効果を検討したランダム化比較試験(RCT)にご参加いただいた方を対象とします．

4. 研究内容

RCTの際に収集された診療録情報および超音波画像データ，発症3ヶ月後の機能的転帰を使用します．筋肉量の減少率と発症3ヶ月後の転帰との関連を分析します．

5. 個人情報の管理について

データの集計の際は患者名をコード化し，個人を特定できないように配慮します.

6. 研究期間

2026 年 1 月から 2026 年 3 月までに実施します.

7. 医学上の貢献

筋肉量の縦断的変化と機能的転帰の関連を示すことができれば，発症早期から骨格筋量の維持を目標に，早期リハビリテーションや積極的な栄養療法などの多面的アプローチの重要性が示唆され，今後入院される患者さまの治療成績，予後の改善に役立つものと考えます.

8. 研究機関

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部

9. 連絡先（研究責任者）

上記研究対象期間において該当になる方で研究に対して不都合がある場合や研究に対してご不明な点がございましたら下記の連絡先まで連絡をください。

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部　田中翔太
805-8508　北九州市八幡東区春の町 1-1-1　TEL:093-671-9318